

2001 年度春の学会 原子核三者若手総会議案書

目次

1	2001 年度三者センター校 (大阪大学) からの報告および議案	2
1.1	基研研究部員会議の報告	2
1.2	2001 年度夏の学校の各講義と講師	2
1.3	オリエンテーションの実施	4
1.4	代表者の選定	4
1.5	財政: 特に繰越金	4
2	2001 年度三者準備校 (東北大学) からの報告および議案	5
2.1	活動報告	5
2.2	今後の活動予定	6
2.3	議案	6
2.4	来年度夏の学校における禁酒措置について	7
3	2000 年度三者名簿校 (金沢大学) の決算報告	7
4	WG の活動報告	8
4.1	夏の学校で行えること	8

編集：2001 年度 三者事務局 (東京大学)

1 2001 年度三者センター校 (大阪大学) からの報告および議案

文責: 木村 哲士 (大阪大学)

1.1 基研研究部員会議の報告

ここでは、2001 年 1 月 18 日、京大基礎物理学研究所で行われた、基研研究部員会議の報告を行う。

我々は共同研究計画書に、

- 講師旅費 60 万円
- 印刷費 20 万円

と記述して申請した。しかしさらなる考察の結果と、2000 年度夏の学校でかかった費用を考慮した結果、さらに会議での議論の結果、

- 講師旅費 50 万円
- 印刷費 10 万円

を頂くことで決定した。これは夏の学校を実際に運営するには十分な金額である。なおこの決定に伴い、以下のコメントが寄せられた。

- この講師旅費は他の研究会と比べて非常に大きい。それには若手へのサポートという意味が多分に含まれている。これを元に活発な活動することを望む。
- ポスター自身は若手の活動を内外に示す良い宣伝となっている。
- 不祥事対策などについて、確固たる体制を築いて欲しい。

1.2 2001 年度夏の学校の各講義と講師

2001 年 1 月 18 日現在の、講義題目、講師は以下の通り。

- 素粒子パート

- 「超対称性や宇宙項問題などに関するモデルの構成について」
井沢健一 氏 (東京大学)
- 「非可換幾何学と場の理論」
綿村 哲 氏 (東北大学)
- 「変貌するひもの統一理論」
糸山 浩 氏 (大阪大学)

- 原子核パート

- 「ハイパー核とバリオン間相互作用」
田村 裕和 氏 (東北大学)
- 「高励起原子核の構造 - 集団性と統計性」
松尾 正之 氏 (新潟大学)
- 「クォーク物質は中性子星の描像をいかに変更するか？」
巽 敏隆 氏 (京都大学)

- 高エネルギーパート

- 「B decay における CP 非保存入門」
宮林 謙吉 氏 (奈良女子大学)
- 「JLC 計画の現状と展望」
藤井 恵介 氏 (KEK) (未定)

- 三者共通講義

- 「クォーク・グルーオンプラズマは検証できるのか？」
宮村 修 氏 (広島大学)
- 「超対称性粒子の探索」
川越 清似 氏 (神戸大学)

1.3 オリエンテーションの実施

各研究室で、新年度4月に、新入生に対してオリエンテーションを実施することを望む。主に夏の学校そのものについてとなるであろうが、若手活動について紹介して欲しい。特に、役職校の負担が非常に大きなこと、近年不祥事が絶えないこと、不祥事は重大な犯罪であること、の紹介をお願いしたい。参考資料は、若手のホームページ¹に全て揃っている。同時に yonupa-ml についても紹介されたい。

これは各研究室に任せるより仕方がない。

1.4 代表者の選定

今回の学会から、議案書発行に伴って各研究室に代表者をつくり、その人を中心として研究室の意見を取りまとめ、総会に提出してもらおう方針をとっている。これは2000年秋の学会(新潟大学)で行われた若手総会の決議に基づく。これを今度ともすすめていって欲しい。総会の議論を円滑に進めるために必要であろう。

1.5 財政: 特に繰越金

2000年秋の学会では、我々センター校は「緊急会議の設置」を提案し、可決された。しかしその会議開催の経費については非常に難しい部分を含んでいるため、決定されなかった。今回センター校はこれについて議案を提出する予定であったが、大阪大学内部でまだこの議論が収束しない、つまり繰越金の扱いについて決定されていないため、今回ここでは決議しない。そのかわりここでは、大阪大学内部で現在拳がっている対応策を述べよう。以後の参考にされたい。

- 繰越金の明言の時期

現在肥大化しつつ繰越金を、若手への援助団体となっている全ての団体(基研、素粒子論グループ、原子核談話会、高エネルギー研究者会議、RCNP)に公表する必要があるであろうが、公表時期が問題である。春は様々な団体の予算決定時期であるため、春に明言すると、以後永久に援助が頂けない場合もあり得る。したがって公表するならば秋がよいであろう。

- 緊急会議の財源

¹URL は <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/yonupa/> である。

2000 年秋の学会では緊急会議の財源は繰越金をあてる提案をした。しかし当時は、もし 2001 年春の学会までに緊急会議があるなら、その財源として繰越金を明言しないであてる予定であった。

今後も緊急会議を行うなら、その財源を明記できるようにした方が良いであろう。繰越金の存在を明記すれば、その使用に大義名分が立つ。

- 夏の学校参加費

やはり繰越金の存在を明記した後の方法である。夏の学校参加費は現在 3000 円である。これを数年間 1000 円などに値下げする。数年間は十分もつであろう。問題は、繰越金が十分使われた後の、値上げの時期である。

ここではこれらについて議論し、決議をとろうとはしない。現状を認識してもらうことと、次世代への課題とする。それだけを了解して頂きたい。

2 2001 年度三者準備校 (東北大学) からの報告および議案

文責：柿崎 充 (東北大学)

2.1 活動報告

1. 2001 年度夏の学校について

- 日程

2001 年 8 月 1 日 (水) – 8 月 7 日 (火)

- 場所

パノラマランド木島平 (長野県下高井郡木島平村上木島 3878-2)

1999,2000 年度夏の学校と同じ。

- 料金

1 泊 + 3 食 (セット) : 5,250 円

但し食事及び宿泊は全て分割可能で、その場合は以下の料金となる。

宿泊 (単価) : 3,150 円

朝食(単価) : 840 円

昼食(単価) : 630 円

夕食(単価) : 1,575 円(料金はすべて税込み)

猶、料理の量を昨年と比べ、昼食は多め、夕食は少なめを依頼している。ただし、料金は昨年と同じになる見通し。

- 旅費補助額の決定時期

より多くの補助を参加者に与えるために、夏の学校終了後に旅費補助額を決定する。

- 2001 年度夏の学校校長 : 赤間 尚之(東北大学)

同生徒会長 : 柿崎 充(東北大学)

2. 日本物理学会協賛

- 昨年度に引き続き、日本物理学会に三者若手夏の学校の協賛を申請中

3. ホテルとの仮契約

- パノラマランド木島平と仮契約をした。

2.2 今後の活動予定

1. ポスター、パンフレットの郵送

- 5月頃、ポスター、パンフレットを郵送する予定。猶、昨年と同様に、郵送費節減のため、同一住所の研究室にはまとめて送るので、各研究室で振り分けて頂きたい。

2.3 議案

1. 夏の学校の参加費について

参加費を例年通り、3000 円にしたい。

2. 開校式、M1 懇親会について

- 開校式

注意事項の伝達に重点を置く。来年度は準備校では酒類を準備しない。

- M1 懇親会

昨年の不祥事の要因となっているとの指摘があるので、来年度の開催は自粛する。

2.4 来年度夏の学校における禁酒措置について

今年度夏の学校において男性の女性に対する性的嫌がらせが三件発生した。これを受けて、今年度夏の学校では、事件発生後、残りの期間について禁酒の措置がとられた。これは、上記の事件の全てにおいて飲酒が一つの要因となっていた可能性があるからである。

そこで、前回の秋の学会では、「来年度の夏の学校では期間通じて全面的な禁酒とする」ことを提案したところ、夏の学校に与える影響が大きいため、継続審議となった。我々はこれを受けて議論を重ねてきたが、WGの意見などを参考にし、下記のような提案をする。

来年度夏の学校において禁酒措置はとらない。ただし、準備校の主催する行事（開校式など）では酒類を準備しない。

また、中谷さん@金沢大からの議案を受け、犯罪に対し毅然とした態度を取ることを明言する。今後起こり得る、窃盗、傷害等の事件に対しては法に則って行動し、性的嫌がらせに対してはWGの判断を仰ぐ。

3 2000 年度三者名簿校（金沢大学）の決算報告

文責：大黒安広（金沢大学）

収入	各研究室より（名簿代）	619 冊 * 400 円 / 冊	= 247,600
	（郵送料）		55,020
	99 年度からの繰越金		18,260
	合計		320,880
支出	名簿作成費（660 部、郵送料込）		236,480
	雑費		970
	収入 - 支出		83,430

以上より 2001 年度への繰越金は 83,430 円となります。

4 WGの活動報告

文責；古結尚

4.1 夏の学校で行えること

- 何か起こったときに相談できる窓口として「駆け込み寺」を有志で運営する。
- 参加する男性、女性の両方に対して注意を喚起する「メモ」を作る。